

公表

事業所における自己評価結果

事業所名：放課後デイサービスるぽろ太田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境 ・ 体 制 整 備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		・空間の工夫や、子どもたちのグループに対して環境を工夫している。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		・適切に配置されている。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	・安全面への配慮 ・賃貸物件を利用しており、完全なバリアフリーでないため、段差に対する工夫などが今後の課題である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		・児童に合わせた環境整備に留意している。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		・アクティブルーム、スヌーズレンルーム、個室などを準備している。
業務 改 善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		・業務改善については、継続して意識的に取組みを行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・今年度よりサービス評価を実施し、頂いた意見をもとに業務改善を図っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・会議を通して意見を伝える環境作りを行っている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1	・現状、第三者評価は受けておらず、受審について検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		・必要な研修についてはたくさんの職員が参加できるように工夫されている。
支援 ・ アセ スメ ント	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		・保護者に対して、必要な情報は提供するようにしている。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	3		・必要に応じて会議で確認を行っている。
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・職員会議等において共有することを意識している。
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・計画作成時と作成後に共有できるようにしている。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	1	・活用するツールについては引き続き検討していく必要があるが、聞き取るべき内容が抜け落ちないように確認を行っている。

適切な支援の提供	16 児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		・子ども達や保護者に伝わるような視点を持ち職員が評価を行えるよう今後も工夫していく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		・個別でのプログラムが中心ではあるが、活動計画については職員間で話し合っている。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		・個別でのプログラムが中心ではあるが、その中で創意工夫を重ねるよう努めている。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	3		・児童に必要な支援を掘り下げ、計画作成に取り組んでいる。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・当日、支援開始前に子ども達の動きを想定し打ち合わせを行っている。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		・振り返りの時間を持ち、できるだけその日の問題点を共有し解決できるようにしている。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		・連絡ノート等への記載を意識している。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		・職員で共有し次への見通しが持てるようにしている。
	24 <u>【放デイのみ】</u> 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	2	1	・意識して見直し、確認ができるようにしている。
	25 <u>【放デイのみ】</u> こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		・視覚支援などの配慮を行っている。自己で決めることをどう評価するかを考えて対応していく。
連携による支援の実現	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2		・太子町のトライアングル会議などを通して関係機関との連携が取れるように参加し、職員間で共有を行っている。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	・まだまだ十分ではない。依頼に応じて、必要な連携に努めていく。
	28 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	1	・まだまだ十分ではない。必要時に連携が図れるように検討したい。
	29 保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	2	・児童センターなどの地域資源を利用している。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		・迎えに来て頂いた再に保護者へフィードバックやご様子を伺うなどして共通理解を図っている。
	31 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	・保護者ニーズのあるテーマを当施設スタッフ・同法人スタッフ・外部講師を活用し親講座を企画・開催している。

関係機関や保護者との連携	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行なうなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			
	33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			
	34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	35	【児発センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	36	【児発センターのみ】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行ってているか。	3		・学校、保護者とも連携を取り連絡調整を行っている。
	38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		・法人内の事業所については情報共有を行っている。
	39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		・必要に応じて情報共有に努めていく。
	40	【放デイのみ】(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3		・会議の機会があれば参加を検討したい。
	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		・契約時に重要事項説明書等を用いて説明を行っている。保護者からの質問はその都度説明を行っている。
保護者への説明等	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		・児童や保護者の意見を伺いながら対応するように心がけている。
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3		・書面を示し支援内容が適切に伝わるように丁寧な説明を心掛けている。
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		・電話での問い合わせや送迎時に相談があれば対応を行っている。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	1	・親講座等で必要に応じた対応を行っている。きょうだいの交流については今後の課題として検討する。
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		・苦情を頂いた際には、迅速かつ真摯に対応を行っていくように取り組んでいる。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		・メール配信等で、連絡事項の適切な発信に取り組んでいる。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		・個人情報が含まれる書類は鍵付きの棚に保管し、閲覧場所を限定するなど取扱いに留意している。

	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		・三大阶段ではないが、使用できるツールを利用して対応に心がけている。
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	2	・太子町福祉フェスティバルなどを通して地域の方との関わりを持つ機会がある。今後も様々な機会を持つことが課題である。。
	51	<u>【放ディのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		・親講座などの際に対応をしている。送迎時を利用して相談にも応じている。
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		・定期的に確認を行いながら必要な情報を職員間で共有している。感染症対策委員会なども実施。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		・定期的に見直しを行い、避難訓練を実施している。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3		・契約時に状況確認を行っている。変更があった際には都度書類の更新と共有を行っている。
	55	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	1	・保護者を通じてアレルギーの有無を確認し、食事イベントの際には、使用する食材がアレルギーにあたるかを改めて保護者へ確認を取っている。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		・定期的に訓練を行い、安全に配慮した対応を心掛けている。
	57	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		・るばろ便りや連絡ノートで報告・周知を行っている。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		・毎月1回リスクマネジメント会議を開催して施設全体で共有し、安全対策への意識を高めている。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		・虐待防止委員会を設置し、研修や定期的なセルフチェックを行うなど、虐待防止に努めている。
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		・身体拘束については、最小限にすることを基本とし、支援計画に記載するとともに定期的に見直しを行っている。